

「道のエコミュージアム 宇津ノ谷峠」では
道の駅を拠点に「誰でも、いつでも
地域の魅力を学べる仕組みづくり」
を目指しています。

以下の手順で進めてください

1

道の駅のインフォメーションを訪れます

道の駅の情報室にはミュージアムの
インフォメーションがあります。
そこで解説パネルを読んでみてください。

2

歩くコースを決めます

地域にある色々な分野のポイントを
テーマごとに整理し、
3つのルートを設定しています。
どのルートを歩くと どのポイントについて学べるのかを
理解し、コースを選んでください。

3

解説マップを手に出発です

歩くルートが決まったら、ルートごとにある
解説マップを手にとり、いよいよ出発です。
解説マップの学びのポイントには
テーマの頭文字と番号がふってあります。
また、ルート沿いの学びのポイントに
番号付サインがあります。このサインを目指して、
番号を照らし合わせながら歩いていきます。



テーマの頭文字

番号

R-0

今後は、宇津ノ谷峠をコアゾーンとして
周辺の歴史的拠点とのネットワークを進めます。



この地図は、国土地理院長の承認を得て、
同院発行の2万5千分1地形図を複製したものである。
(承認番号 平19部複、第232号)



編集・発行

NPO法人地域づくりサポートネット

〒420-0852 静岡市葵区紺屋町15-4 地域産業研究所内
TEL 054-273-8041 FAX 054-271-0143
E-mail info@shizuoka-t.net
ホームページ <http://www.shizuoka-t.net/>

2008年3月



時代の流れは、道筋変えて、人が歩くことから車を利用
することに変えていきました。

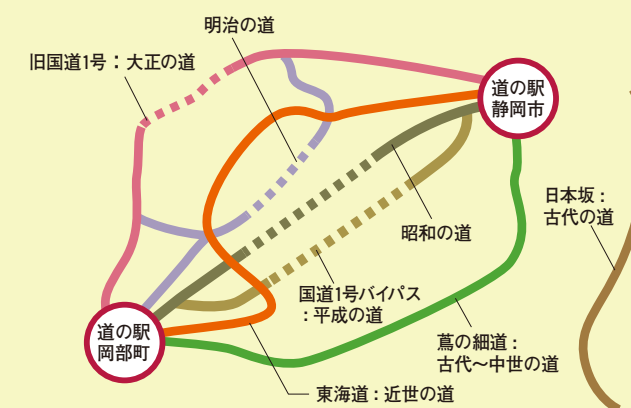
しかし、峠を越えて、宿場に着了たら、わらじを脱ぐ、靴
をぬぐ。あるいは峠にさしかかったら履物のヒモを締めて
いく。変わらないこともあります。

立ち止まり、車から降りて、履物を変えて、歩きながら
風景、歴史、土木、建築、文学、伝統、暮らしなど、時代を
経て変わったこと、変わらなかったことを学び、未来を
考える…。それが道のエコミュージアムです。

日本で初めての道のエコミュージアムは 宇津ノ谷峠から

宇津ノ谷峠一体は、古代、中世、近世、現代のそれぞ
れの時代の主要幹線が現存しています。特に交通が大
きく変わった明治、大正、昭和、平成の道の変遷が学べ
る数少ない場所です。

地域のよさを再認識し、住んでいる人も、訪れる人
も元気になり、地域の魅力が高まる仕組みを宇津ノ谷
峠から発信します。



高の細道 道標



大正トンネル

3つのルートと学びのポイント

どのルートも3km前後、約1~2時間の散策が楽しめます。



3ルートのテーマとその魅力

ルート	近代遺産ルート	鳶の細道ルート	東海道ルート
テーマ	明治になると人が自由に行き来するようになり、さらに車社会の到来が道づくりや風景を大きく変えてきました。時代のニーズにより変化してきた地域を学べるコースです。	律令時代に日本の交通制度「駅伝制」ができあがり、鳶の細道は「伝馬の道(国道)」で日常的に利用されていました。のちの時代には官道(国道)となりました。古代の人の往来を偲ぶるコースです。	江戸時代に宿駅制度が確立すると日本で最も重要な街道となりました。大名、文人墨客、外国人などの旅人が往来したコースです。
Road 〈道づくり〉	<ul style="list-style-type: none"> R-0 道の駅(静岡・岡部) R-3 明治の道 <ul style="list-style-type: none"> ○R-3-① 明治トンネル/R-3-② トンネル前広場 R-4 旧国道1号:大正の道 <ul style="list-style-type: none"> ○R-4-① 大正トンネル R-5 昭和の道 <ul style="list-style-type: none"> ○R-5-① 昭和トンネル R-6 国道1号バイパス:平成の道 <ul style="list-style-type: none"> ○R-6-① 平成トンネル R-7 宇津ノ谷集落 R-8 木和田川砂防堰堤群 	<ul style="list-style-type: none"> R-0 道の駅(静岡・岡部) R-1 鳶の細道:古代～中世の道 R-8 木和田川砂防堰堤群 	<ul style="list-style-type: none"> R-0 道の駅(静岡・岡部) R-2 東海道:近世の道 R-7 宇津ノ谷集落
Art & Roman 〈文化〉	<ul style="list-style-type: none"> AR-2 つたの細道公園 <ul style="list-style-type: none"> ・藤原俊成・藤原定家・鴨長明・吉田兼好・在原業平・阿仏尼・林羅山・下田歌子・片山静枝の歌の板碑がある 	<ul style="list-style-type: none"> AR-1 鳶の細道 <ul style="list-style-type: none"> ○AR-1-① 伊勢物語 在原業平(825~880) ○AR-1-② 題材として扱われている <ul style="list-style-type: none"> ・「平家物語」(1184)・「十六夜日記」(1279) ・「真心海道記」(1223)・「東関紀行」(1242) ・「音妻鑑」(1180~1266)・「宇津山記」(1514) ○AR-1-③ 歌に詠まれている。 <ul style="list-style-type: none"> ・「新古今和歌集」藤原定家(1162~1241) ・鴨長明(1153~1216) ・「玉葉和歌集」藤原俊成(1114~1204) ・寂蓮法師(1139年頃~1202) ・「歌枕名寄」順徳院(1197~1242) ・藤原為家(1198~1275) ・「駿河記」[夫木和歌集] ・連歌師宗長(1448~1532) ○AR-1-④ 絵に描かれている <ul style="list-style-type: none"> ・「鳶の細道図屏風」(重文)深江蘆舟(1699~1757) ・「宇津の山路」山本深川(1755~69) ・「宇津の山図」今村紫紅(1880~1916) AR-2 つたの細道公園 <ul style="list-style-type: none"> ・藤原俊成・藤原定家・鴨長明・吉田兼好 ・在原業平・阿仏尼 ・林羅山・下田歌子・片山静枝の歌の板碑がある 	<ul style="list-style-type: none"> AR-3 東海道 <ul style="list-style-type: none"> ○AR-3-① 題材として扱われている <ul style="list-style-type: none"> ・「東海道中膝栗毛」(1802) ・「東海道名所図会」(1797) ・「鳶紅葉宇都谷峠」河竹黙阿弥:歌舞伎(1856) ○AR-3-② 絵に描かれている <ul style="list-style-type: none"> ・「東海道五十三次之内岡部(保永堂版)」 歌川(安藤)広重(1797~1858) ・「東海道五十三次之内岡部(行書)」 歌川(安藤)広重(1797~1858) ・「東海道図屏風」(17C) ・「東海道分間延絵図」(1806) ・「末広東海道」(1863) ・「東海道五十三次勝景」(1863) ・「東海名所改正道中記 宇津の山下岡部」(1875)
Legend 〈伝説・伝承〉	<ul style="list-style-type: none"> L-2 坂下地藏堂 L-3 慶龍寺 <ul style="list-style-type: none"> ○L-3-① 宇津ノ谷延命地藏尊 ○L-3-② 十団子 	<ul style="list-style-type: none"> L-1 猫石 L-2 坂下地藏堂 	<ul style="list-style-type: none"> L-2 坂下地藏堂 L-3 慶龍寺 <ul style="list-style-type: none"> ○L-3-① 宇津ノ谷延命地藏尊 ○L-3-② 十団子 L-4 馬頭観音 L-5 雁山の墓 L-6 峠の地藏堂跡 L-7 髭題目の碑
Personage 〈人〉	<ul style="list-style-type: none"> P-3 お羽織屋 <ul style="list-style-type: none"> ・豊臣秀吉(1590年) ・徳川家康(1606年) ・参勤交代の各大名 P-5 羽倉簡堂 蘿徑記(1830年) P-7 明治トンネル発案者 	<ul style="list-style-type: none"> P-1 在原業平(825~880) P-2 源実朝の妻(1210) P-5 羽倉簡堂 蘿徑記(1830) 	<ul style="list-style-type: none"> P-3 お羽織屋 <ul style="list-style-type: none"> ・豊臣秀吉(1590)・徳川家康(1606) ・参勤交代の各大名 P-4 許六(1692) P-5 羽倉簡堂 蘿徑記(1830) P-6 通過した外国人 <ul style="list-style-type: none"> ・ケンペル(医師1690) ・ヴィルマン(1652) ・ツンベルグ(医師、植物学者1776) ・シーボルト(医師1823) ・朝鮮通信使・琉球使節